

平成12年5月吉日

原子力産業会議

副会長 森 一久殿

社団法人 大日本水産会

事業部 宮治 薫

月刊誌「水産界」への原稿依頼について

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本会で発行しております「水産界」は、水産の情報不足を補うため、近代国家に脱皮を図った明治15年3月に発刊、当時における唯一の情報伝達誌として活用されており、誌齢は116年を数え、歴史と伝統を誇る水産総合月刊誌であります。

その第1頁に「巻頭随想」を設けて、業界トップの方々にご執筆をお願いいたしておりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

原稿内容＝随想のため、特に定めません

顔写真を1枚お願い致します

原稿分量＝22字で60行（400字詰原稿用紙3枚強）

締切り＝ 12年6月20日

掲載＝ 平成12年7月号

「平成の乱」序章——日本はどこに行くのか

バブル崩壊の直後のこと、哲学者の山折哲雄氏は「今回の大改革は、五百年前の應仁の乱はじまる大地殻変動に匹敵する。五十年や百年はかかるのでないか」と述べた。この小文は、この言葉に触発されて、筆者なりに考えを整理したものであるが、いまや経済危機も先がみえたかのように言われ、その後始末の「財政改革」や日々の不祥事や汚職や青少年問題の解決には、個々に関係者が「改革会議」とか「刷新会議」に相集い、真剣に議論して取り組めば何とかなる、というのが、今や「世論」の大勢であるように見える。果してそれで、日本あるいは国民は、もっと大きな陥穽に嵌まらなくて済むのであろうか。陰惨な事件が後を絶たず、マスコミでは連日のように責任者の「お詫び」が放送される。やはり、上記の「バブル崩壊（平成改革）＝” 應仁の乱” 」説を検証してみる事は、極めて有意義ではないかと思う。

五百年引きずって来た旧体制

1417年の應仁の乱に始まる、鴨川も屍体で堰止められたという悲惨な大戦乱。これに始まった日本全体の変革は、支配層や経済体制に止まらず、日本人の思想構造にまで及び、例えば、應仁の乱以前から残った名家は十指に満たないといわれるし、社会の常識や習慣の多くが変わってしまった。そして100年に及ぶ内戦と飢餓の阿鼻叫喚の時代を経て出来上がった日本のトータル・システムは、その後五百年の間、基本的に全く変わらず、明治維新でも、さきの敗戦後も、ずっとズット引き継がれてきた。この日本のトータル・システムは、とても一言やふた言で説明・表現出来る訳はないが、取り合えず私は、仮に「巨大な仲良しクラブ」（以下「この巨大システム」という）と呼ぶことにしている。そして、この巨大システムは、明治維新や敗戦の「国難」に際して、一定の役割を果たしたことは否めないが……。いま日本が直面する難局が並のものでない事は、各界とも強く認識し、大小の対策が提案・実施されている。その殆どすべては、外国（特にアメリカ）からの受け売りであり、又ある程度成果をあげたかのようにみえるものもある。しかしこの大改革劇は、その演出や俳優や道具建てが少々変わっても、一貫して例の「巨大システム」が重苦しい「基底音」のように付きまとっている。そのためか、なす事すべて、先送り・中途半端で、国民の苛立ちも高まっている。

蓮如が支えた日本の心

15世紀「應仁の乱」に始まった、日本全体の悲惨な大地殻変動からの再建の過程におい

ては、日本人の思想の変革が決定的な要素となった。その中でも仏教とくに浄土真宗の影響は今日の混乱を考えるうえでも、示唆に富む。法然・親鸞に発した同宗はその後3世紀を経ても大衆の心に届かず、本願寺には誰も寄りつかず閑古鳥が鳴き、他宗の加持祈禱の類に手を出す状況だったという。

打ち続く飢餓と殺戮そして募る相互不信のなか、望みなく荒れ果てようとしていた大衆の心に、再び火を灯したのは、本願寺再興の僧「蓮如（れんにょ）」だったといわれる。蓮如は同宗の「浄化」に取り組み、大衆と同じ目線で教義を分かりやすい言葉で語るなど、阿弥陀如来への信仰がもたらしうる、心の安息（安心” あんじん”）と思考の「自由」とを説いて回った。とくに蓮如が北陸の吉崎にいた数年のあいだに、信者の数は急増した。要するに、人々は蓮如によって、世の「無常」を悟るとともに、柔軟な思考を持って生きるという勇氣に触れ得たのであろう。そして爾来、江戸時代には浄土真宗は日本国民の四割が信者といわれる位、精神・思想におおきな影響をあたえつづけてきた。

それはさておき、五百年前日本を襲った大動乱期において、日本人が全体として平静心を取戻し、つぎの秩序を模索し始めることが出来たことについて、このことの果たした役割は根源的なものと思われる。そうでなければ、日本人の心に修復し難い亀裂を残したことであろう。あの朝鮮戦争で同様の「地獄」をみた民族の、未だ統一の話し合いさえ出来ないでいる、五十年の苦難をみるにつけ、その感を深くする。

「無常」を見失ったか、日本人

そもそも日本の直面する大改革の因って来る所以が、在来 of 日本システムのあらゆる面での「制度疲労」であることはいうまでもないが、同時に精神・思想の面における風化や墮落が大きな要因となっているのではなかろうか。もともとこの世の中の総てのものは、うつろい変わり行くもの、つまり「無常」である事は、仏教の洗礼を受けてきた日本人には常識といえる事だったはずなのに・・・最近の状況をみていると、デシジョンや行動の早い外国人の方が、「無常」を体得しているのはないか、という気がしてくる。

「土地の価格は永久に上がる」という神話に皆が酔いしれ、その挙げ句の倒産劇がつづき、「会社は永遠なり」の言葉を遣して自ら逝った社長さん。また国民が財布の紐を緩めてくれないのは「老後の不安」だ、と言う。果して我々は、「無常」を識るが故にこそ、（衣食足りた時には）「永遠なもの」に憧れてしまうほど、ヤワな国民なのであろうか。

（おわり）

大日本水産会
三崎 様

森 一久

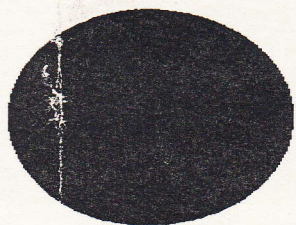
上記①-⑦が訂正箇所
ギザギザ

初校

平成の乱の
行方

応仁の乱と 現世を検証すれば

森 一久
(財)温水養魚開発協会常務



巻頭随想

解

①
バ
ゾル崩壊の直後、哲学者の山折哲雄氏は「今
同の大改革は、500年前の応仁の乱にはじま
る大地変動動に匹敵する」と述べた。この言葉に
触発され、私なりに考えを整理してみた。

500年引きずってきた旧体制

1467年応仁の乱勃発で戦国時代へ突入、100年に
及ぶ内戦と飢饉の阿鼻叫喚を経て出来上がった日
本のトータルシステムは、明治維新でも、敗戦後
も、基本的に全く変わらず、ずっと引き継がれて
きた。いま日本が直面する難局が並のものでない
事は、各界とも強く認識し、大小の対策が提案・
実施されている。その殆どすべては、外国（特に
アメリカ）からの受け売りであり、また、ある程
度成果をあげたかのように見えるものもある。し

2
solieie
生徒

れ得たのである。そして爾来、江戸時代には浄
土真宗は国民の4割が信者といわれる位、精神や
思想に大きな影響を与え続けた。
それはさておき、500年前日本を覆った大動乱期
において、日本人が平静心を取戻し、次の秩序を
模索し始めることが出来た。それは根源的な役割を
果たした。そうでなければ、日本人の心に修復し
難い亀裂を残したことであろう。朝鮮戦争で同
様の「地獄」をみた民族の、50年の苦難をみるに
つけ、その感を深くする。

「無常」を見失ったか、日本人

そもそも日本の直面する大改革の因って来る所
以が、在来システムのあらゆる面での「制
度疲労」であることはいうまでもないが、同時に

3
未降りの

余はわたし
断と在難

+ 墮

と道月建

7-911

かし、この大改革劇は、その演出や俳優が少々疲
わっても、一貫して先の巨カスチムが重苦しい
「基底音」のように付きまとっている。そのためか、
なす事すべて先送り、中途半端で国民の苛立ちも
高まっている。

蓮如が支えた日本の心

応仁の乱に始まった悲惨な大地震災動からの再
建の過程においては、日本人の思想の変革が決定
的な要素となった。望みなく荒れ果てようとして
いた大衆の心に、再び火を灯したのは、本願寺再
興の僧「蓮如（れんにょ）」だったといわれる。蓮
如は浄土真宗の浄化に取組み、大衆と同じ目線で
教義をわかりやすい言葉で語るなど、阿弥陀如来
への信仰がもたらさうる、心の安息と思考の自由
とを説いて回った。人々は、世の無常を悟るとと
もに、柔軟な思想を持って生きるという勇氣に触

17

精神・思想の面における風化や墮落が大きな要因
となっていてはなからうか。もともとこの世
の中絶てのものは、うつろい変わって行くもの、
つまり「無常」である事は、仏教の洗礼を受けて
きた日本人には常識といえる事だったはずなのに
……。最近の状況をみてみると、デジションや行
動の早い外国人の方が、「無常」を体得しているの
はないか、という気がしてくる。

「土地の品格は永久に上がる」という神話に皆が
酔いしれ、その華げ句の倒産劇がつづき、「会社は
永遠なり」の言葉を遺して自ら逝った社長さん。
また国民が財布の紐を緩めてくれないのは「老後
の不安」だ、と言う。果たして我々は、「無常」を
識るが故にこそ、(衣食足りた時には)「永遠なも
の」に憧れてしまうほど、ヤワな国民なのであ
うか。

水産界 2000・8

1100 450 320 280 250 220 180 150 120 100 80 60 40 20 10 5 3 2 1 0

1100 450 320 280 250 220 180 150 120 100 80 60 40 20 10 5 3 2 1 0

5

1100 450 320 280 250 220 180 150 120 100 80 60 40 20 10 5 3 2 1 0

6